

長崎県地学会誌

第 45 号

1986

目 次

研究報告

- 福江市黄島の溶岩トンネル 鎌田 泰彦・元 鍾寛 1
佐世保市松本天文台におけるハレー彗星 (1982 i) の観測 松本 直弥 7

海外報告

- バーヂェス頁岩動物化石群を訪ねて カルガリー紀行 —その3— 松岡 数充 17

抄 録

- NESA Abstract 064—072 25

長崎県地学会記事

- 昭和60・61年度自然系資料収集 (地学関係) 表紙 2
昭和61年度会員移動 表紙 3

昭和61年10月

長崎県地学会

昭和60・61年度自然系資料収集(地学関係)

昭和60年8月23日、長崎県伊藤昭六教育長より長崎県地学会鎌田泰彦会長あてに、前年の「津波見脊椎動物化石層発掘」に引き続き資料収集の協力依頼があった。収集対象としては、琴海町の紅簾片岩、野母崎町の変はんれい岩、伊王島町沖ノ島の化石群であった。さらに、61年度には、高島炭鉱の古第三紀植物化石と奈留町の双子水晶の収集が加えられた。

〔昭和60年度〕

1. 伊王島町沖ノ島層化石群の標本発掘

10月26日(土)、27日(日)の両日に、沖ノ島層の貝化石の採集が計画された。初日は、朝から雨模様のため、参加者も県文化課の3名を加えて9名のみであった。午後には雨が上ったので現地に向い、貝化石の密集部の予察調査を行い、翌日の発掘に備えた。

翌27日は雨も上り、長崎港大波止発8:40の伊王島行には多数の会員が乗り込み、船上では早速賑やかな交歓が行われた。伊王島棧橋に着いて、町役場が用意してくれた軽自動車でも目的地の畦海岸に向う。いくつかのグループに分れ、干上った波食台の上でハンマーやノミを振る。採集品の殆んどが二枚貝であり、残念ながらオウムガイ化石は、かけら程度しか出ない。採集標本は概略的な現地鑑定をし、整形・整理は県文化課立山分室において、囑託の宮崎正武氏により昭和61年末まで行われた。

(参加者)

10月26日 西村 進 鎌田泰彦 近藤 寛 浦川 孝弘 中田勝夫 椿 隆博(文化課) 武田正人 才津雅男 宮崎正武

10月27日 西村 進 勝 幸八 松尾 司 小田 忠昭 鎌田泰彦 近藤 寛 鶴田勝也 布袋 厚 岸川 昇 松尾泰博 石川直衛 浦川孝弘 阪口和則 立川 栄 中田勝夫(文化課) 武田 正人 宮崎正武

2. 野母崎町の変はんれい岩

野母崎町の黒浜と以下^{がやど}宿間の海岸には、九州最古のいわゆる5億年岩石が露出し、独特の景観を見せている。しかし、最近、海岸保全の護岸工事が進み、好露出が失われつつある。そのため、緊急収集ということで、辻田県文化課長や鎌田長崎大学教授ら関係者数名が、9月6日に綱掛岩付近で現地調査を行い、永久保存にふさわしい転石標本を10個程選定した。これらは後日、立山分室の玄関前にトラックで運搬した。

3. 琴海町村松の紅簾片岩

3月27日(木)、小雨降る中で、松が迫鉦山跡のズリ山を掘り起して、紅簾片岩やマンガン鉱石を採集し、立山分室に運搬した。この日の採集には、長崎大学教育学部地学教室が全面的に協力した。

(参加者)

鎌田泰彦 近藤 寛 立川 栄 西津由紀子
藤田祐利 中島 達 中田勝夫
(文化課) 武田正人 宮崎正武

〔昭和61年度〕

4. 高島町高島炭鉱坑内産古第三紀植物化石

愛媛大学理学部地球科学教室松尾秀邦教授の御厚意により、同教授が高島植物群の研究(1967年公表)の際に採集した標本を譲渡して頂いた。これには、保管していた金沢大学教養部の高山俊昭教授の格別な御理解もあって実現した。移管標本の中には、多数のきわめて貴重な完模式標本(新種創設の際の基本標本)が含まれている。

5. 奈留町の子水晶(日本式双晶)

8月29~31日、奈留島水晶山の双子水晶の収集を、奈留町教育委員会の協力の下に行った。石英脈の露頭付近の崩積土中には良品が見つかるが、硬い粘土質のため、発掘には難渋した。しかし、10個程度の双子水晶と、多数の小形水晶の良品を集めることができた。

(参加者)

鎌田泰彦 石川直衛(文化課) 宮崎正武